

# 福音の園®だより

平成18年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞

平成27年度「介護職員確保・定着のための優れた取組」表彰

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049-230-1111(FAX)230-1112

福音の園® Gospelgarden®は有限会社シヤロンの商標

## （ご）家族の声

### 九十四歳を迎えた母

福音の園にお世話になって二回目の誕生日を職員の皆様に暖かく祝って頂き、ありがとうございます。

現在の母は、子供や孫達のことをも気遣うことなく新しい母の世界に住む

ことが出来たように感じています。母のわがままを聞きながらお世話をしてくださる皆様、暖かく声をかけて介護してくださる姿に感謝でいっぱいです。

戦後の大変な時代を、六人の子を育てて頑張ってくれました。母は尽すばかりの人生だったと思います。人の何倍も働き、頑張って長い人生を歩いて来た母の苦労は、子供達それぞれの心の中にしまっておきます。これからの時間は、施設の皆様にお世話をおかけしますが、どうぞ宜しくお願い致します。

末尾になりましたが、こちらへの入所に尽力をし



てくれた妹家族、入所を許してくださった福音の園の皆様感謝しております。

(T・S)

## お便り紹介

### 私共にとっても大変幸せでした

御無沙汰しておりますが、皆々様、今夏は一段と厳しい暑さの中、熱中症対策など、色々大変でしたらっしやいましょう。(中略)

母が亡くなって早や5年になります。福音の園さんで約3年間、本当にお世話になりました。

本来は私共の方で介護しなければならぬところ、皆様方に全てやっていただき、私がそちらに伺った折、母にデザートを口に運びましたが、一口ひと口食べさせるだけでもどんなに大変か、よく分かりました。それも本当に全てに全員の方々が心を込めてお世話して下さいました。

本当に母は良い所へ入れていただき、又、それは私共にとってもそうですが、大変幸せだったと思います。感謝しております。本当にありがとうございます。(後略)。

二〇一五年八月 一五日

O・K



### 五年も経つのに母をなごらすことが出来た

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

「戦後70年談話」が発表された年の夏は、また、「猛暑日連続記録」更新された暑い、暑い夏だった。

それは「要介護度5」の最重度者5名様をお世話していた当園にとっても厳しい夏だった。水分補給等

「熱中症対策」に留意しつつも、大事を取って「点滴処置された方 4名」と云う「猛暑の夏」だった。

そうした中で、思いがけずO様からお便りが届い

た。退所者名簿を見たら、2010年8月5日、満90歳で死去退所されたK様の 月命日だったのだ。もう5年も経つのに忘れないでいて下さったことに心篤くされた。ホームドクターにより呼吸緩和の為に在宅酸素使用開始。食堂ホール脇へベッドを移して16日目の夕刻、静かに旅立たれたK様だった。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

『バイオリニストの千住真理子さんは、中学生のころから、怪物ならぬ「天才少女」と呼ばれ続けてきた。その重圧に疲れ果てて、しばらくバイオリンから離れた経験をもつ。ある日ボランティア団体の依頼で、ホスピスで演奏することになった。散々な出来栄であったが、死と向き合う患者さんたちは、目に涙を浮かべて「ありがとうございます」と言ってくれた。

「一人でもいい。こんな私の音を聴きたいと言ってくれる人のために弾きたい」。心の叫びが復活のきっかけになったと、エッセーに書いている。」

(2015.8.19付 産経新聞・産経抄より抜粋)

「画一的な押し付けにならないように、お一人ひとりの『生活づくりのパートナーを目指します』

の運営方針を再確認しました。長い年月、ケア提供者側の一方的なスケジュール管理や、画一的なプログラムの提供を中心に行われてきました。ところが、その事が認知症の人を混乱させ、症状や状況を増悪させていることに気付き、新しい認知症ケアの仕組みが考えられるようになりました。このケア理念が、

「パーソン・センタード・ケア(その人を中心としたケア)。

「業務IIケア」ではない為、「手早さ」「やりやすさ」「システム化」「組織化」と云った、ケアが楽になる

方法や手段、テクニックを身に着けるものではありません。施設(業務)優先ではなく、どこまでも

「一人の、その人(認知症利用者優先)中心」なのです。

来訪歓迎  
御礼

第5回埼玉県認知症介護実践者研修（3名様）  
菜花  
○田○子様（南房総市）